



AMBICIONE

松本

いま「アツい」松本平のサッカーアンビシオーネの大きな「野望」

いま、松本平はサッカーが盛んです。J2松本山雅FCの存在が原動力の一つとなり、子どもたちの間では人気ナンバーワンのスポーツと言っても過言ではありません。山雅だけではなく、街クラブの指導者たちも地元出身のJリーガーを輩出しようと活発に活動しています。今回はその中の1チーム、AMBICIONE(アンビシオーネ)松本取材。近年めきめきと頭角を現しているジュニアユース(中学生年代)チームの監督と選手に、それぞれの「野望」を聞きました。



中学生の「サッカー頭脳」を刺激本場スペインへの武者修行で鍛える

発足は2012年。東海大三(現東海大諏訪)と創造学園でコーチとして全国高校サッカー選手権を経験した佐々木大佑さんが、中学生年代をターゲットに立ち上げたクラブです。募集の条件は「Jリーガーを目指す小学校6年生」。現在は約50人が所属。佐々木監督はそれ以前に公立中学校でサッカー部の顧問も務めており、かねてより「中学の3年間は一番伸びるし、この時期にいろんな刺激を与えればもっと面白くなるはず」との思いを募らせていたといいます。

その「刺激」の最たるものが、毎年1、2月に2週間ほど行うスペイン遠征。世界最先端のサッカーの国で、同年代の選手とのトレーニングマッチ

もあれば愚直な堅守速攻に徹するところも。子どもたちにも、スペイン流の「サッカー頭脳」が求められるのです。高橋剣吾主将は「相手の嫌なところを狙っていくスタイルで、試合によって全部変わるところが好き」と話してくれました。

実際にこのスタイルで、結果も出しています。年間を通じてメインの一つとなる高円宮杯U15リーグ戦は松本山雅FC、AC長野パルセイロと同じ北信越2部に所属し、前半戦の第7節を終えて4勝2分1敗で県勢最高の3位。毎年所属カテゴリーを上げており、今年も2位以内に入っただけの1部昇格を目指しています。この年代はとて「結果」と「育成」のバランスが求められませんが、「勝たないための試合はないし、子どもたちは勝つために頭を使います。そのゲームでどうするかが大事で、勝利を目指しながら育成もしていきたいですね」と佐々木監督。その語る口調は自然と熱を帯びます。

この地域でサッカーを語る上で欠かせないのは山雅の存在。育成に力を入れており、中学生年代のチームにも実績豊かな指導者を置いています。そこを頂点としたピラミッドができてつつある中、街クラブとしての存在意義はどこにあるのでしょうか。自身も山雅の育成組織に携わっていたことがある佐々木監督は「山雅の効果でサッカー人口が増えていることは間違いないです。うちも山雅(のセレクション)を落ちた子が来るようになってい

を転戦する「武者修行」です。しかも、対戦相手はリーガエスバニョーラ(スペインリーグ)でも名門のバレンシアやセビーリヤなどの下部組織。このほか、バルセロナやレアル・マドリードの試合観戦も含まれます。「今は日本にいてもいろんな情報に触れることができるけど、百聞は一見に如かず。子どもたちには本物に触れてほしいんです」と佐々木監督。

根底にある思いは、「一番面白いことをやりたい」という熱意です。勤勉さなど日本ならではの国民性も生かしつつ、スペイン流の最先端を取り入れながら子どもたちの指導に当たります。実際アンビシオーネはこの年代のチームにしては珍しく、基本となるフォーメーションがありません。対戦相手や試合の流れ、時間帯など状況に応じて変幻自在にやり方を変えるため、華麗なパスサッカーを見せるとき

今後その流れは変わらない。でもそこで、うちを「逆転のツール」にしてほしいです。勝ち負けは水もただけ、全部乗っかってくれれば成長は100%保証します」と力を込めます。

信州サッカー全体の底上げに目を向ければ、Jクラブの育成組織だけが突出している状況になってしまっている。今後は、Jクラブの育成組織だけでなく、M内外でのよい競争の中で磨かれてこそ育っていくもの。佐々木監督は「そのことも踏まえ、山雅がすんなり県内で勝ててしまうという環境になれば、それは必ずしもいいことじゃない。だからうちも、相手がJユースだろうと「やっ」と話してくれました。

もちろん、全員がプロになれるわけではありません。それでも、佐々木監督は「他人の夢を笑うことはしたくないです。誰もがサッカーを始めた頃は夢を『Jリーガー』とか『日本代表』とか言うけど、現実を見てどんどんしぼんでいってしまいますよね。でもそうじゃなくて、夢の実現までに必要なことを逆算してやっつけていける環境にしたいんです」と話します。育成にさらなる力を注ぐため、今年4月から小学生チームも発足。ちょうどチームが組める8人が1期生として入団し、元気にボールを追いかけています。

クラブ名の「アンビシオーネ」は、アンビシヤス(野望)のスペイン語とイタリア語をミックスさせた造語です。「最先端のスペインと伝統のイタリア。いろんなものを取り入れながら新しい化学変化が生まれるような環境にしたい」という意味を込めました」と佐々木監督。その野望は、どこまでも果てしなく大きく膨らんでいます。



佐々木 大佑 監督



高橋 剣吾 主将

今年から北信越リーグになったので、他県のチームと気の抜けない試合ができています。その効果が日々の練習から手を抜かずやるという意識がチーム全体に出てきたと思います。今年のチームの武器はスピード。毎年昇格しているの、今年も自分たちが北信越1部に昇格させたいです。



増澤 直哉 選手

足の速さが武器なので、フォワードとして相手の最終ラインの裏に抜けることを重点的にやっています。アンビシオーネでプレーして、パスの技術や戦術理解度の面で成長できた実感があります。憧れの選手はロナウジーニョ(元ブラジル代表)で、Jリーガーと日本代表を目指しています。



宮嶋 航大 選手

センターバックで身長は166センチと大きくないですが、背の高い選手にも絶対に負けぬ気持ちでプレーしています。目標とする選手はマスケラーノ(バルセロナ)。小さいけど絶対に負けぬPKを取られないのすごいです。自分もプロを目指して、まずは全国で通用する選手になりたいです。